

普及活動情勢報告（令和元年 11 月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

シシトウ・ピーマンの実証試験栽培について調査 ～環境制御技術の視察調査を実施～



生産者が生育状況を確認

10月30日、JA土佐くろしおハウスシシトウ部会、およびピーマン部会の視察調査が農業担い手育成センターで行われました。

農業担い手育成センターの担当より、環境制御や省力化に関する実証試験の目的や内容、栽培管理の概要についての説明がありました。JAからは今作の生育状況と収穫状況について報告しました。

当課からは、今作の気象条件と生育状況、展示試験の途中経過、および栽培管理について講習しました。生産者からは「自分の栽培と比較でき、勉強になった」などの声が聞かれました。

参加した生産者から、「また見てみたい」との声もあったため、当課は、JAと連携して、再度開催できるよう支援します。

今後の栽培管理を確認 ～さやいんげん現地検討会の開催～



会場の栽培状況を検討する様子

10月25日、JA土佐くろしおインゲン部会の現地検討会が開催されました。須崎市と中土佐町の2会場で計14人の生産者が参加し、現地圃場の栽培状況を検討しました。

当課からは、今後の栽培管理、今作での1条植えやIPMの実証計画について情報提供しました。JAからは、農薬に関する情報、GAPへの取り組み等について説明がありました。参加した生産者は、温度管理や病虫害発生状況について質問したり、生産者同士で今作の実証計画の結果がどうなるか検討するなどしていました。

当課は、今後も巡回指導や実証によりさやいんげんの収量・品質の向上、省力化を支援していきます。

GAPの取り組みについて周知 ～ゆず目慣らし会の開催～



GAPについて説明している様子

10月28日、JA高知県津野山ゆず部会の目慣らし会が開催され、41名の生産者が参加しました。

JA営農指導課からは、収穫や調製時の注意点について説明がありました。

当課からは、GAPの取り組み、特に農作業安全について説明し、作業時のけがに注意するよう呼びかけを行いました。生産者は実際のけがの事例写真を見て、農作業の危険性を実感していました。

当課は、今後もJAと連携して、津野山地域のゆずの安定生産と、農作業時の安全性向上に向けて支援します。

口目ヶ市の集落を守るために ～考えよう集落のこと～



みんなで意見出し

11月17日、津野町口目ヶ市集落において、集落の将来について話し合ってもらうため、座談会を開催しました。

当課は、意見出しに参考となる多面的機能支払いの取組や集落営農についての事例紹介を行い、参加者17名が2グループに分かれて、今思っていることを話し合ってもらいました。参加者からは、「昭和1ケタ世代がリタイヤしたら人がいなくなる」「コメを作っても機械代がない」など将来を不安視する中で、「地域のリーダー・後継者を育てて安心できる集落を作ることが大切」という意見も出されました。

当課は、出された意見をもとに、継続した話し合いができるよう支援していきます。

花き経営体の作業場のレイアウト改善支援 ～ 『カイゼン』の取組で作業効率化を ～



作業者の動線撮影の様子

10月30日、11月13日、管内の花き栽培経営体で、当課は、作業者の動線見直し等による作業場のレイアウト改善に向けた現地調査を行いました。1回目の予備調査では、作成した作業場の見取り図で確認しながら、選花作業者の様子を、2回目は、作業場内を広く、そして作業者に邪魔にならないアングルを工夫してビデオで撮影しました。

今後は動画を確認して、現状の作業員とモノの動きを見取り図へ落とし込み資料化したうえで、レイアウトの改善に向け経営体との検討に活用します。

当課は、今後もモデル経営体の『カイゼン』に向けて、提案を通じて支援していきます。